

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	えがおの家（放課後等デイサービス）			
○保護者評価実施期間	令和8年3月2日		～	令和8年3月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数)	12
○従業者評価実施期間	令和8年3月16日		～	令和8年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年5月19日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	曜日ごとに園外散歩や公園活動を取り入れ、社会性の育ちにつながるよう支援している。	交通ルールや公共マナー、施設の使い方について学ぶ場としている。	バスや電車などの公共交通機関を活用し、園外活動の機会を広げていく。
2	家族が安心して子育てができるよう、信頼関係の構築に努めている	子育ての困りごとや不安について、面談をはじめ電話やSNSも活用して相談にのったり、送迎時に家族と顔を合わせてこどもの様子を伝えたりして良好な信頼関係を築いている。	いつでも遠慮なく相談できる環境づくりを行い、ペアレントトレーニングや面談等の取組も実施していく。
3	年齢に応じて買い物実習や調理実習を行い、生活に必要な技能の習得につなげている。	自立に向けて、ADL（日常生活動作）の向上を図り、一人ひとりの特性に合わせた支援を行っている。	自分の力で取り組めるよう、生活力を高めるための支援や活動を提案していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	業務の効率化や働き方改革を図り、心身ともに余裕のあるなかでの支援を目指したい。	子どもたちが安心して楽しく過ごせるよう支援をし、その中で事務的な業務も担っているため、人的な増員の希望がある。放課後等デイサービスに特化した業務用ソフトを導入したが、まだ使い方に慣れていないこともあり、効果的な活用はこれからである。	さらなる業務の効率化や業務の整理を推進していく。また、職員のメンタルにも寄り添った業務内容を考えていく。
2	事業所内には集団活動に適した広いスペースが少なく、死角もあることから、放課後等デイサービスとして活用するには工夫が求められる。	一般住宅を利用しているため空間に制約があり、死角も見られる。課題解決に向けてアイデアを出し合いながら工夫していく。	活動内容に応じて園外での活動や系列事業所の利用、学校の体育館の借用などを行い、こどもがのびのびと活動できるよう工夫していく。また、死角を補うために職員の立ち位置や動線を工夫し、こどもが安全に楽しく過ごせるよう配慮していく。
3			